

### 3- (5) ズワイガニ資源調査

太田 武行

#### 目的

本県の主幹漁業である、沖合底曳網漁業で漁獲される魚種の中で、最も生産額の高いズワイガニは、TAC対象種でもあり、資源水準の把握が必須となっている。1990年代後半から漁獲量が増加し2004年にピークとなった(図1)。しかしながら、近年になって資源水準は頭打ちとなり中位横ばいになり、資源量の評価と管理方法について検討する必要がある。そこで、本種の資源水準を把握するため以下の調査を行った。

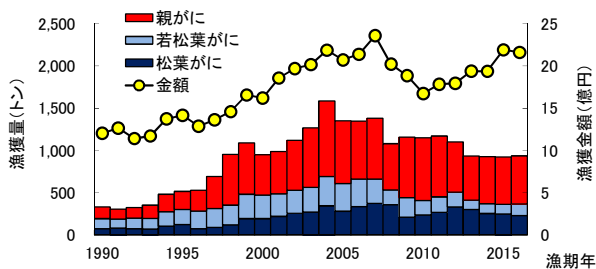


図1 鳥取県におけるズワイガニの漁獲量の推移

①漁期前調査結果 2016年10月3日～26日にかけて、山陰沖の水深184m～428mの海域において、合計26の調査点で着底トロール網による漁期前調査を行った(図2)。調査海域内において漁獲対象となるズワイガニの資源量(単位=万尾)は表1のようになった。

**松葉がに (脱皮後1年以上の雄のズワイガニ) :** 出雲沖で増加し、推定資源尾数は前年比134%、平年比100%となった(表1, 図3左)。甲幅9.5～12cmの小～中型個体が主体であり、前年に比べ甲幅12cm以上の大型個体が少ない傾向となった(図4)。

**若松葉がに (脱皮6カ月以内の雄のズワイガニ) :** 出雲沖で増加したものの、隠岐北西沖で減少したため、推定資源尾数は前年比82%、平年比139%となった(表1, 図3中央)。甲幅10～12cm台の小～中型個体が主体となり、前年に比べ甲幅12cm以上の大型個体が多い傾向となった(図4)。

**親がに (雌のズワイガニ) :** 出雲沖、鳥取沖で減少したものの、隠岐北西沖で増加し、推定資源量は前年比116%、平年比119%となった(表1, 図3右)。甲幅7～8cm台の小～中型個体が主体となり(図3)、来漁期に漁獲対象となるあかこ(初産卵個体)が多く採集された。

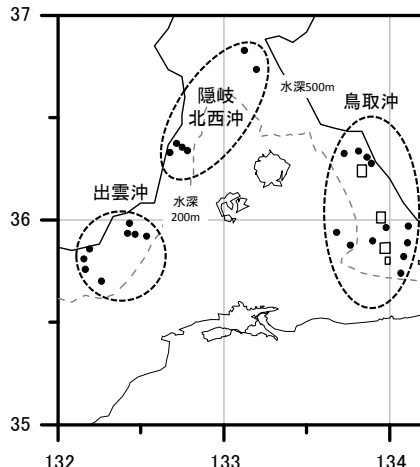


図2 試験操業位置(図中黒丸が操業位置)

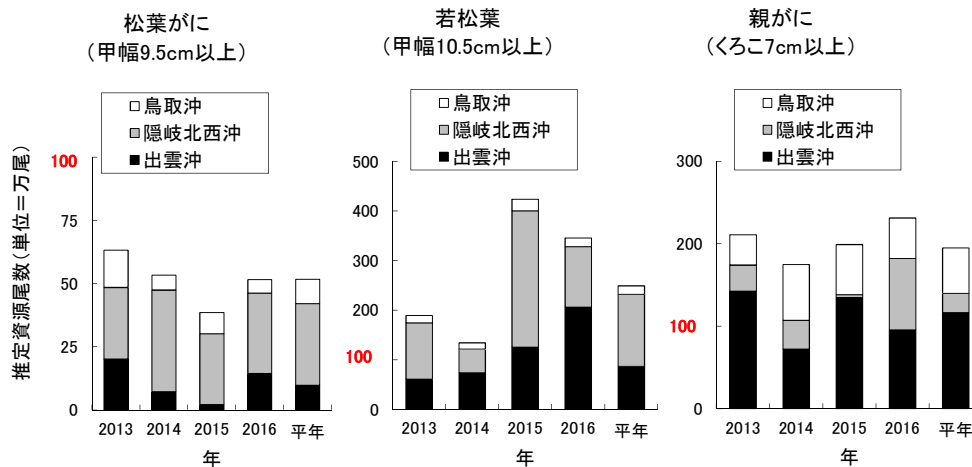


図3 年別海域別の漁獲対象となるズワイガニの資源量



















